SCHEDULE

東京都写真美術館展覧会スケジュール

2006: 11月, 12月 / 年末年始休館 12月29日～1月1日 / 2007: 1月, 2月, 3月, 4月, 5月

3F展示室

コラージュと
フォトモンタージュ展
11月3日(金・祝)～12月17日(日)

光と影
12月23日(土・祝)～2月18日(日)

マグナムが見た「東京」展
3月10日(土)～5月6日(日)

昭和写真の1945-1985
5月12日(土)～6月24日(日)

2F展示室

石内都:mother's
9月23日(土・祝)～11月5日(日)

写真新世紀展2006
11月11日(土)～12月3日(日)

球体写真二元論
細江英公の世界
12月9日(土)～1月28日(日)

新規コレクション展
2月3日(土)～2月18日(日)

日本写真開拓史
Ⅰ 関東編
3月10日(土)～5月6日(日)

地平線の夢 水越武展
5月12日(土)～7月1日(日)

B1F映像展示室

パラレル・ニッポン
－現代日本建築展1996-2006－
10月21日(土)～12月3日(日)

第17回日本写真作家協会公募展
第4回JPA公募展
12月9日(土)～12月24日(日)

日本の新進作家 vol.5
地球（ほし）の旅人
1月2日(火)～2月18日(日)

上野彦馬賞展
3月10日(土)～3月18日(日)

APA展
3月31日(土)～4月15日(日)

天野尚写真展
4月21日(土)～5月20日(日)

1Fホール

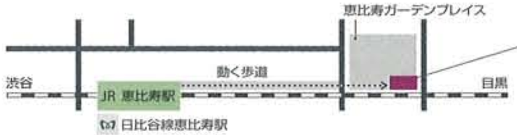
ニキフォル
知られざる天才画家の肖像
11月3日(金・祝)～12月14日(木)

恋人たちの失われた革命
2007年1月2日(火)～

※スケジュール・展覧会タイトル等は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

文化庁メディア芸術祭　2月23日(金)～3月4日(日) ※2月26日(月)は開館

ご利用案内	●休館日：毎週月曜日（休館日が祝日または振替休日の場合、その翌日）・年末年始（12/29～1/1） ●開館時間：10:00～18:00（木・金は20:00まで、ただし12/28は18:00まで）入館は閉館の30分前まで
年始特別開館 1月2日より開館	2007年1月2日（火）～4日（木） 開館時間／11:00～18:00（入館は閉館の30分前まで）
割引チケットの販売	お得な割引料金で2会場以上を自由に組み合わせてご覧いただける割引チケットを販売しております。 詳しくはチケット売り場でおたずねください。



東京都写真美術館
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
Tel.03-3280-0099／Fax.03-3280-0033
http://www.syabi.com

JR恵比寿駅東口より徒歩約7分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

※本誌編集ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則として消費税込みの価格です。

東京都写真美術館ニュース「アイズ06」52号●発行日:2006年11月3日／企画・編集:東京都写真美術館事業企画課 普及係●印刷・製本:JTB印刷株式会社●発行:財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

©2006●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。

eyes

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY NEWS MAGAZINE 2006

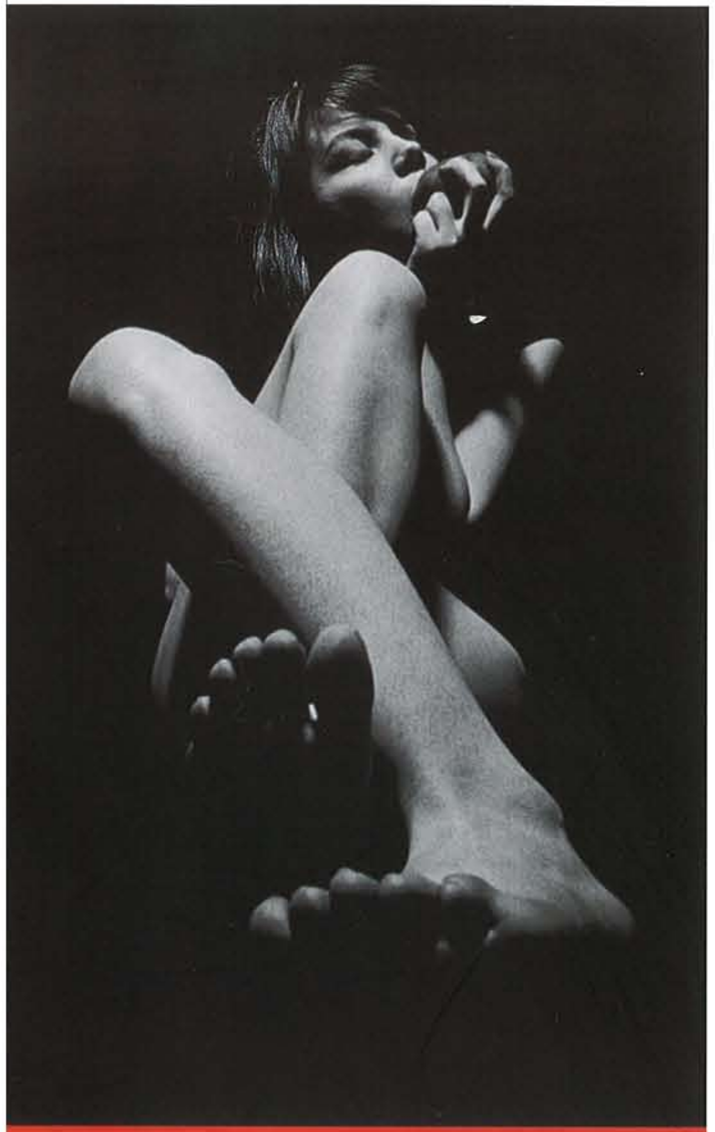
東京都写真美術館ニュース
［アイズ］

52

作家インタビュー

「球体写真二元論：細江英公の世界」展

東京都写真美術館では、当館の重点収集作家の1人である細江英公の展覧会を開催いたします。世界的に有名な代表作のみならず、初の展示となる写真絵本を紹介。2つの顔を合わせ持つ細江英公の「二元論」とは何なのか。その魅力に迫ります。（談・金子隆一、東京都写真美術館専門調査員）



*01

細江英公は、1950年代の末から活躍をはじめた写真家です。ちょうど戦後から始まったリアリズム写真運動が行き詰まった頃で、高度経済成長期の中、新たな表現が求められた時代でした。細江は、東松照明、奈良原一高、川田喜久治などと共に、『VIVO』の活動を経て、60年代の写真表現を切り開いた重要な写真家のひとりとして、その名を広めました。最初に評価を受けたのは、暗黒舞踏家の土方巽をモデルにした「おとこと女」でしょう。それまで“美”や“エロス”として扱われたヌードを、直接的な“性”として真正面からとらえ、人間の本質的な問題として物語っていったのです。まさにそれはいままでにない表現でした。

'63年に三島由紀夫をモデルにした写真集『薔薇刑』はあまりにも有名です。当時、絶頂期にある三島由紀夫を、細江は、まるでオブジェを扱うかのごとく、ゴムホースを巻いたり、あちこちに転がし、裸にし、時には女性と絡ませる…そんなスキャンダリスティックな手法を用いて撮影しています。しかし、そこには細江英公と三島由紀夫の出会いがありました。バロック的美学を超現実的に描いた「薔薇刑」は、まさに二人の芸術家の特異な才能が紡ぎだした成果ともいえると思います。その後、'69年には、日本各地の土俗的な世界につむじ風を巻き起こすかのごとく現れる土方巽を神話的に表現した「鎌鼬（かまいたち）」を、'71年には肉体のフォルムを追及した「抱擁」を発表。これらの作品はそれぞれ、幻想的で主観的な虚構の世界を全面に押し出しています。そしてそれは、決して美しく煌びやかなものではなく、もっと人間のドロドロとした存在をイメージ化していくようなものでした。前衛的でグロテスクな表現者…そんな一面ばかりがクローズアップされる細江英公ですが、実はナイーブで、ロマンチストとしての一面を持っている作家でもある、と私は思っています。彼が高校生時代に撮影したデビュー作「ポーディちゃん」という少女の写真は、まさにそうした一面が垣間見られます。日本の原風景を求めていく細江英公の軌跡には、それに平行して西洋のモダニズムに憧れるナイーブな戦後世代の青年という、もうひとつの細江英公の世界があるのです。

「たかちゃんとぼく」（小学館 1997年）
「おかあさんのばか」（窓社 2004年）

今回は、これまでの展覧会で1度も取上げられたことのなかった、写真絵本『たかちゃんとぼく』（表紙）『おかあさんのばか』の2冊を展示し、細江英公の新たな一面を知ろうというところが目的です。初の展示となる写真絵本はどちらも「薔薇刑」と同じ60年代に英語版として出版されました。つまり、「薔薇刑」と、「たかちゃんとぼく」は、振り子の端と端であって、その両方を行ったり来たりしているのが細江英公という写真家なのです。それを知った上で、改めて細江作品を見てみると、写真絵本にも人間のやりきれない部分が出ていますし、「薔薇刑」や「鎌鼬」のなかにも非常にナイーブな部分が見えてきます。例えば、「おとこと女」では、ハードな作品ばかりが取上げられやすいのですが、最後は胸板の厚い男性が胸に小鳥をそっと抱いている写真で頁を終わらせているんですね。私はこれこそが細江英公なんだと思います。

かつて、三島由紀夫が婦人雑誌「マドモアゼル」に寄せた文章に、こんな言葉があります。

≪現代におけるリリシズム（抒情詩的）がどんな形をとらねばならぬか、ということが、現代芸術の一番おもしろい課題だと私は考えている。リリシズムは、現代において、否定された形、ねぢまげられた形、逆説的な形、敗北し流刑に処された形、鼻つまみの形、…それらさまざまのネガティブな形をとらざるをえず、そこから逆に清冽な噴泉を投射する。（中略）細江英公氏の作品が私に強く訴えるのは、氏がこのように「現代の抒情」を深く潜ませた作品を作るからである。そこには極度に人工的な創作意識と、優しい傷つきやすい魂とが、いつも相争ってゐる≫

東京では5年ぶりとなる細江英公の個展ですが、この三島由紀夫の言葉にあるように、細江英公という写真家を重層的に理解して頂ければと思っています。そして、これまで中心的に見えていた世界だけでなく、別のものも見えてくるという展示構成を作りあげることで、細江作品の抒情的でロマンティックな両面を楽しんでいただけると思います。

*02

*03

*04

*05

*表紙 写真絵本「たかちゃんとぼく」（1997年）より
*01「おとこと女」作品15 1961年
*02「薔薇刑」作品32 1961年
*03「鎌鼬」作品32 1965年
*04「抱擁」作品17 1969年
*05「ひまわりの子」1992年

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

2F 2階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 | 三越カード割引 | アトレカード割引

12月9日(土) → 1月28日(日)
※年末年始休館 12月29日〜1月1日

球体写真二元論：細江英公の世界展

SPHERICAL DUALISM OF PHOTGRAPHY: A World of Eikoh Hosoe

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円
( )は20名以上の団体および上記カード会員割引 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：東京都／東京都写真美術館
○協賛：株式会社ニコン／ニコンカメラ販売株式会社 ○特別協力：清里フォトアート・ミュージアム
○協力：フォト・ギャラリー・インターナショナル／株式会社フレームマン／日本写真印刷株式会社／青幻舎

詳細ホームページ：http://www.syabi.com./schedule/schedule.html

「おとこと女」作品33 1960年

肉体や被写体との間に紡ぎだされる独特のストーリー性で"性"を追求する写真家・細江英公は、1933年3月、山形県米沢市に生まれ、幼少期より東京で育ちました。父親の影響でカメラに興味を持った細江は、15歳のときにはじめて自分のカメラを購入し、18歳のときに米軍駐留施設で少女を撮影した「ポーディちゃん」で「富士フォトコンテスト」の最高賞を受賞します。これをきっかけに、写真家を志し、東京写真短期大学（現・東京工芸大学）に進むと同時にフリーのカメラマンとして活躍した細江は、1960年前後に「10人の眼」展や「VIVO」などでの作家活動を通じて、日本の戦後写真に新たな地平を切り開きました。主な写真集に、"肉体と性"のテーマを正面から取り上げた『おとこと女』(1961)、三島由紀夫を被写体に"生と死"を追求した『薔薇刑』(1963)、また舞踏家・土方巽を被写体として東北地方の土俗と霊気とユーモアを表現した『鎌鼬』(1969)、その他、『抱擁』(1971)、『ガウディの宇宙』(1984)などがあります。

本展では、初期の作品から1960年代を代表する「おとこと女」や「薔薇刑」、「鎌鼬」、70年代以降を代表する「抱擁」や「ガウディの宇宙」などシリーズに加えて、これまでの個展では紹介されることのなかった「たかちゃんとぼく」、「おかあさんのばか」といった写真絵本を展示。新たな視点から細江英公の写真世界を考察しようという試みです。残酷さと優しさ、土着とモダニズムといった二元的な要素をもつ細江英公の写真世界を、是非、この機会にお楽しみください。

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

3F 3階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 | 三越カード割引 | アトレカード割引

11月3日(金・祝) → 12月17日(日)

コラージュとフォトモンタージュ展

Collage and Photomontage

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円
( )は20名以上の団体および上記カード会員割引 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：東京都／東京都写真美術館／読売新聞東京本社／美術館連絡協議会
○協賛：花王株式会社

詳細ホームページ：http://www.syabi.com./schedule/schedule.html

ギュスターヴ・ル・グレイ「海景」1856〜1859年

平井輝七「生命」1938年

マン・レイ「アングルのバイオリン」1924年

「コラージュ」は17世紀から使われている美術の手法です。しかし、その表現は写真の誕生により多様性を増すようになりました。日本でも写真を使ったコラージュやフォトモンタージュ作品を明治初期から見ることができ、大正期にはダダ、シュルレアリスム等の影響から、多くの作品が創られました。近年では、現代美術の手法として、ごく一般的に写真家ではない、多くの美術家によっても作品が創られています。そもそも、写真がコラージュとして利用され始めた黎明期は、技術的に不可能な事を表現するために用いられました。そして、20世紀初頭の前衛美術では、写真を使う事により、リアルな社会へのメッセージや風刺、超現実といった要素を作品の中に取り入れてきました。戦後は、画家や版画家といった美術家たちが、既存のイメージである写真を使って新たな作品を世に生み出していったのです。本展では、これら「コラージュとフォトモンタージュ」の歴史を3つのパートに分け、収蔵作品を中心に約120点の作品を展示いたします。写真を貼る、合成するという行為を通じて、作家たちは私たちに直接的なメッセージを投げかけています。写真の視点に改めて立ってみて、コラージュの意味や表現の魅力を捉え直してみませんか？

草間彌生「かぼちゃととかげの思い出」1975年

■ 担当学芸員による展示解説

会期中の第2・4金曜日午後2時より担当学芸員による展示解説を行います。

■ カフェトーク（有料・事前申込制）

日時：12月2日(土)17時〜（講師）柏木 博（デザイン評論家）
12月9日(土)17時〜（講師）横山 勝彦（練馬区立美術館学芸員）
場所：東京都写真美術館2階 カフェ・シャンブル・クレール
定員：各日35名 参加費：1500円（展覧会チケット／ドリンク付）
※申し込み方法など詳細はホームページでご確認ください

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

2F　2階展示室 Exhibition Gallery

≫11月11日㊏→12月3日㊐

写真新世紀展2006

New Cosmos of Photography Tokyo Exhibition 2006

□ 入場無料

○主催：キヤノン株式会社　○共催：東京都写真美術館

詳細ホームページ：http://canon.jp/scsa

キヤノンが文化支援活動の一環として行っている「写真新世紀」は、新人写真家の発掘・育成・支援を目的にし、これまでに国内外で活躍する多数の写真家を輩出してきました。15年目を迎えた今年は、過去最高となる1505名の応募がありました。本展では、6組の優秀賞、28組の佳作受賞作品および、昨年グランプリを受賞した小澤亜希子氏の新作をご紹介いたします。

小澤亜希子「バブ」より

2006年度グランプリ選出公開審査会&表彰式

優秀賞受賞6組の中から、グランプリ1組を選出する公開審査会を行います。

日時：12月1日（金）15:30〜18:30

また、同日の13:30〜14:45には審査員のボリス・スナイノフ氏と荒木経惟氏によるトークショーも予定しています。

※参加ご希望の方は、詳細ホームページ（canon.jp/scsa）でご確認の上、往復はがきでお申し込みください。11月1日より受付開始。各イベントとも定員150名になり次第受付終了

◎お問い合せ≫
キヤノン（株）コーポレートコミュニケーションセンター文化支援推進室
写真新世紀事務局　03-5482-3904

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

2F　2階展示室 Exhibition Gallery

≫2月3日㊏→2月18日㊐

新規コレクション展

「ようこそ。写真美術館へ!!」（仮称）

□ 入場無料

○主催：東京都／東京都写真美術館

詳細ホームページ：http://www.syabi.com./schedule/schedule.html

東京都写真美術館では、1989年から国内外の優れた写真作品と映像作品・資料の収集活動を続けています。コレクション内容は多岐にわたり、写真の歴史を基に集められた約23,000点を収蔵しています。1999年度より、寄贈・寄託を除いて、作品の収集は休止を迫られましたが、2003年度から、当館維持会員が組織する「写真映像文化支援協議会」のご助力により、作品購入を再開いたしました。本展は2005年度に新しく、写真美術館のコレクションに加わった作品・資料を一堂に公開します。

当館のコレクションの経緯、仕組み、今後の展望なども合わせて知ることができ、写真美術館をより深く理解する機会となるでしょう。

山内道雄「新宿区、歌舞伎町」1984年

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

B1F　地下1階映像展示室 Images & Technology Gallery

友の会割引　三越カード割引　アトレカード割引

≫10月21日㊏→12月3日㊐

パラレル・ニッポン　現代日本建築展 1996-2006

PARALLELNIPPON

□ 一般 700（560）円　□ 学生 600（480）円　□ 中高生・65歳以上 500（400）円

（　）は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料　※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：国際交流基金／日本建築学会／東京都写真美術館／東京新聞

○後援：外務省　○協力：日本バーチャルリアリティ学会／筑波大学岩田研究室

詳細ホームページ：http://www.syabi.com./schedule/schedule.html　国際交流基金ホームページ：http://www.jpf.go.jp/j

本展覧会は、国際交流基金・日本建築学会・東京都写真美術館・東京新聞の協力によって、過去10年（1996年〜2006年）に施工した日本の建築から、代表的な約112作品を選び、わが国の社会文化状況と対比させながら展示を行う世界巡回展です。いわゆる建築ジャーナリズムの写真に加え、本館のコレクションから各時代の「都市と建築」を捉えた写真作品を織り交ぜ、さらに体験型展示という形で空間構成いたします。わが国の社会状況全体を、都市・ライフスタイル・文化と言う切り口で整理し対比を軸として、この10年間の建築をめぐる取り組みが、社会のどの部分に貢献し、触れてきたかを呈示する試みです。

金沢21世紀美術館
設計：妹島和世＋西沢立衛／SANAA　撮影：SANAA

■出品建築家

青木淳、安藤忠雄、石山修武、磯崎新、伊東豊雄、大谷弘明、黒川紀章、坂本一成、妹島和世+西澤立衛、谷口吉生、陶器二三雄、原広司、坂茂、藤本壮介、Herzog & de Meuron、槇文彦、みかんぐみ、宮本佳明、安田幸一、ヨコミゾ・マコト、レンゾ・ピアノ ほか

■イベントインフォメーション　会期中のイベントにふるってご参加ください。

○ギャラリートーク
会場：東京都写真美術館　地下1階映像展示室
詳細は http://www.syabi.com でご確認ください

○シンポジウム「ポストバブルの建設シーン」2006年11月9日（木）18:30〜
司会：三宅理一　出演：藤森照信／ヨコミゾ マコト／三浦展／米山勇 ほか
会場：国際交流基金国際会議場
国際交流基金ホームページ http://www.jpf.go.jp/j

荒木経惟「写真論1988-1989」より　1988〜1989年

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

B1F　B1階展示室 Images & Technolohy Gallery

≫12月9日㊏→12月24日㊐

第17回日本写真作家協会展 第4回JPA公募展

□ 入場無料

○主催：日本写真作家協会
○協力：東京都写真美術館

詳細ホームページ：http://www.jpa-phot.com/

今年で17回目となるJPA展は、日本写真作家協会の会員による200点の作品が出展されます。また第4回目となる公募展には全国から2,000点の応募が集まりました。その中から入賞・入選作品約100点を展示いたします。

◎お問い合せ≫ 日本写真作家協会　03-3535-6251

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

3F 3階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 | 三越カード割引 | アトレカード割引

» 12月23日㊏・㊗ → 2月18日㊐
※年末年始休館　12月29日〜1月1日

Light and Shadow: First There Was Light

光と影—はじめに、ひかりが、あった

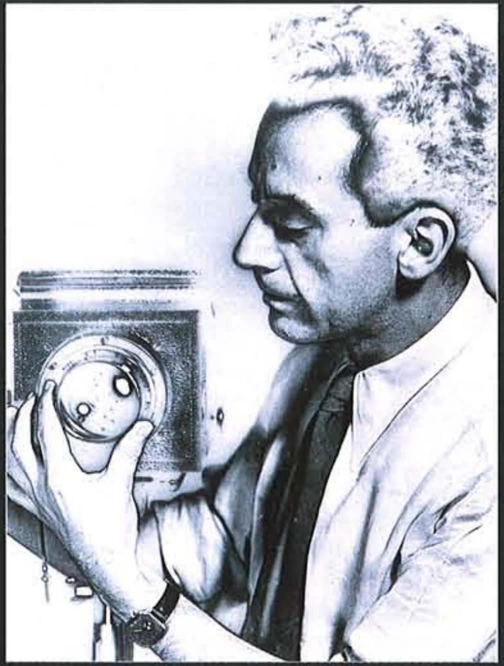
First Encounters with Light in Photographic Art

□ 一般 500(400)円　□ 学生 400(320)円　□ 中高生・65歳以上 250(200)円
(　)は20名以上の団体および上記カード会員割引料金　※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
※東京都写真美術館友の会会員は無料　※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：東京都／東京都写真美術館
○作品技術協力：キヤノン株式会社
○協力：日本カメラ社／フォト・ギャラリー・インターナショナル／恵比寿ガーデンプレイス○助成：FRAME FRAME
○後援：フィンランドセンター THE FINNISH INSTITUTE IN JAPAN

詳細ホームページ：http://www.syabi.com./schedule/schedule.html

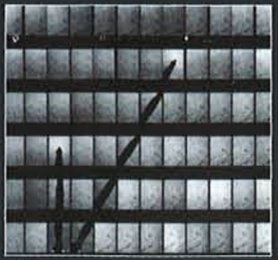
本展では写真芸術の原点である「光と影」をテーマのひとつとして、そのはじまりから、近年のデジタル写真の台頭によって、より多様性を呈する現在の写真表現までをさまざまな観点から検証します。当館収蔵作品による数多くの国内外の写真・映像作品、資料をはじめ、世界の第一線で活躍する現代写真家・アーティストたちの最新作は、私たちに写真映像の新たな可能性とかわりゆく価値観を示してくれることでしょう。

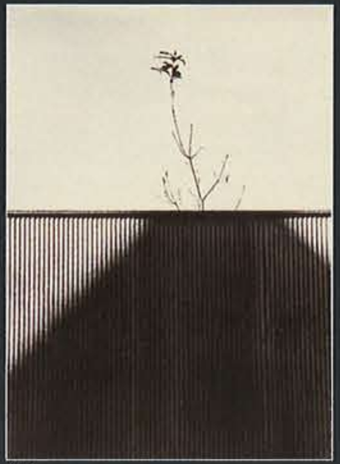

*01

*02

*03

*04


*05


*06

*07

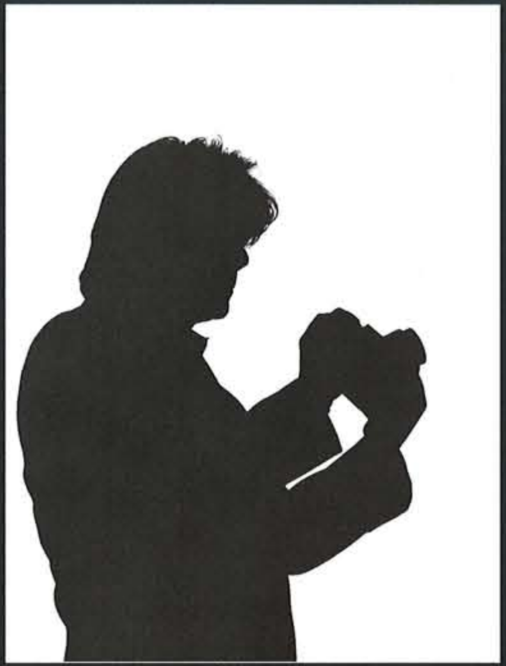
■ 出品予定作家・作品（諸事情により変更することもあります）

- *01 マン・レイ「自写像」 1933年
- *02 山崎博「Heliography#10」 1978年
- *03 森山大道「光と影」より 1981年
- *04 サーラ・エクストロン「Grotesque & Arabesque」より 2005年
- *05 伊藤義彦「KAGE*6128903KA1」 1989年
- *06 福原路草「堀」 1934年
- *07 ラスロ・モホイ=ナジ「フォトグラム」より 1922-26
- *08 ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット「植物の葉」 1844年
- *09 瑛九「フォト・デッサン」より 制作年不詳
- *10 リー・フリードランダー「New york City」 1966年
- *11 杉浦邦恵「アーティストの書類」より（森山大道）2006年

*08

*09

*10


*11

関連事業：会期中出展作家によるアーティストトーク+ギャラリーツアーを予定　※詳細はwww.syabi.comでご確認ください。

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY MAGAZINE VOL.52

B1F 地下1階映像展示室 Images & Technology Gallery

友の会割引 ｜ 三越カード割引 ｜ アトレカード割引

≫ 1月2日(火) → 2月18日(日)

日本の新進作家vol.5

地球(ほし)の旅人 ── 新たなネイチャーフォトの挑戦

── 菊池哲男・前川貴行・林 明輝 ──

□ 一般 700(560)円　□ 学生 600(480)円　□ 中高生・65歳以上 500(400)円

(　)は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料　※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞

○助成：財団法人 地域創造

○協賛：資生堂／凸版印刷／ニコン／ニコンカメラ販売／富士フイルムイメージング／マミヤ・デジタル・イメージング

○協力：イマジン・アートプランニング／キヤノンマーケティングジャパン／富士フイルムイメージテック／ユニバーサルカラー

詳細ホームページ：http://www.syabi.com./schedule/schedule.html

高き峰々 雲表の縦走路、白馬鑓ヶ岳　1991年8月

夜明け　2006年9月

Tetsuo Kikutci

菊池哲男（きくち・てつお 1961-）

14歳から独学で写真をはじめ、20歳より山岳写真に傾倒。写真家兼ライターとして撮りためた作品を専門誌などに発表。2001年には月刊『山と渓谷』誌の表紙を担当する。山岳スキーの分野でもアルプス最高峰モンブランをはじめ、モンテローザやオートルートなど国内外で300ルートを越える滑降取材を行う。著書に『美しき山稜』(1999年)、『スキーツアー』(2001年)、『白馬SHIROUMA』(2005年)がある。2006年4月、市立大町山岳博物館にて個展「白馬SHIROUMA」を開催する。

当館では、開館以来、写真表現の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘し、創造活動の展開の場とすることを美術館の基本的性格として掲げ、継続的に現代作家の展覧会「日本の新進作家」を開催してまいりました。第5回目となる本展では、「地球の旅人：新たなネイチャーフォトの挑戦」と題し、近年活躍のめざましい3名のネイチャー・フォトグラファーをご紹介します。

日ごと自然を失いつつある私たちの生活。産業化、工業化の進んだ20世紀では多くの野生の動植物の生存が脅かされるところとなり、多くの種は絶滅の運命をたどり、自然風景はその姿を変えることになりました。わが国でもトキ絶滅は記憶に新しく、生態系の破壊は、現実的で身近な問題です。この機会にぜひ、自然と人間の関係を振り返るとともに、国内外で活躍する新進作家3名の作品から、自然へのカメラアイ「ネイチャーフォト」の意義について考えてみませんか？

アメリカグマ　2002年8月

ホッキョクグマ　2000年11月

ハクトウワシ　2002年2月

Takayuki Maekawa

前川貴行（まえかわ・たかゆき　1969-）

高校卒業後、コンピュータ関連企業に勤務。26歳の頃より独学で写真をはじめ、97年より動物写真家・田中光常の助手をつとめる。2000年よりフリーの動物写真家として活動を開始。日本、カナダ、アラスカを主なフィールドとして内外の野生動物の世界をテーマに撮影に取り組み、カメラ雑誌、総合誌のグラビアなどに作品を発表。著作にフォトCD『極北の王者ホッキョクグマ』(2002年)、写真絵本『こおりのくにのシロクマおやこ』(2003年)がある。2007年10月、柏崎市立博物館にて「The World of Wild Animals 奇跡の瞬間　前川貴行の世界」開催予定。

雲海の流れ 枝折峠、新潟県　1999年8月

Meiki Lin

林 明輝（りん・めいき 1969-）

18歳より独学で写真をはじめる。日本百名山・雨飾山を取材した個展「あまかざり」(1998年)、日本の水風景を巡る写真展「水のほとり」(2001年)、森林を歩き続けた個展「森の瞬間」(2004年)を、それぞれ富士フォトサロンで開催。著書に『あまかざり』『水のほとり』(1998年・2001年)、『森の瞬間』(2004年)などがある。2005年、国際野生写真連盟(IFWP)主催の「ネイチャーフォト・ブック・オブザイヤー」グランプリに「森の瞬間」が選出される。

ヒメボタル 哲多町、岡山県　2004年7月

作品は全て参加図版

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

B1.1.2.3F B1.2.3階展示室・1階ホール
Images & Technology Gallery / Exhibition Gallery

≫2月23日㊎→3月4日㊐
2月26日(月)は開館

平成18年度[第10回]

文化庁メディア芸術祭

□ 入場無料
○主催：文化庁メディア芸術祭実行委員会(文化庁・CG-ARTS協会)
○協力：東京都写真美術館

詳細ホームページ　http://plaza.bunka.go.jp/

アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門における本年度を代表する優秀作品を選出し、アーティストと鑑賞者を 結ぶ場となっている文化庁メディア芸術祭。今回は記念すべき第10回を迎え、世界中からご応募いただいた4部門の優秀作品の展示を行います。開催期間中は、シンポジウムやイベント、上映会を多数実施します。また文化庁メディア芸術祭の協賛事業として「第12回学生CGコンテスト受賞作品展」を 開催いたします。メディア芸術の今をお楽しみください。

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

3F 3階展示室
Exhibition Gallery

≫3月10日㊏→5月6日㊐

友の会割引
三越カード割引
アトレカード割引

マグナムが見た「東京」展
TOKYO: Through the Eyes of Magnum Photographers

□ 料金未定
○主催：マグナム・フォト東京／財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

※詳細は次号「eyes53号」にてお知らせします。

マグナムは、1947年、ロバート・キャパ(ハンガリー)の発案で、写真家の権利と自由を守り主張することを目的として、ニューヨークとパリに発足した写真家集団です。本展は、日本の戦後から現在までの60余年を、マグナムの写真家たちの視点で振り返る展覧会です。

©Werner Bischof
Magnum Photos Tokyo

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

2F 2階展示室
Exhibition Gallery

友の会無料　三越カード割引　アトレカード割引

≫3月10日㊏→5月6日㊐

日本写真開拓史 I. 関東編
History of Pioneers in Japanese photography [I. Kantoh district]

□ 一般 500(400)円　□ 学生 400(320)円　□ 中高生・65歳以上 250(200)円
(　)は20名以上の団体および上記カード会員割引　※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
※東京都写真美術館友の会会員は無料　※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：東京都／東京都写真美術館／読売新聞東京本社／美術館連絡協議会
○協力：日本大学芸術学部　○協賛：花王株式会社

※詳細は次号「eyes53号」にてお知らせします。

東京都写真美術館では、日本全国にある博物館、文書館、郷土資料館等の機関が所蔵する幕末・明治期の写真資料を調査し、体系化する「日本写真開拓史」シリーズを開催します。

第一弾となる「関東編」では、関東圏に点在する1500ヵ所の関係機関への調査を試み、その中から選りすぐりの作品と資料、約150～200点を「であい」「まなび」「ひろがり」の三部構成でご紹介いたします。

幕末期、近代の日本および日本人を写し出す鏡として機能した写真。本展では写真の側面を検証し、その普及と伝播に努めた関東地方における写真の軌道をたどります。第二弾は「四国・九州編」(平成21年度)を予定しています。

フェリックス・ベアト「幕末写真帖」より　Panorama of Yeddo from Atagoyama(愛宕山から見た江戸のパノラマ)1865～66年　鶏卵紙

＜年末年始の開館のお知らせ＞

年末は12月28日(木)まで、
年始は1月2日(火)から開館いたします。

～12月27日(水)	通常通り開館 10:00～18:00、木・金は20:00まで。 図書室は18:00まで。
12月28日(木)	10:00～18:00
12月29日(金) ～ 1月1日(月・祝)	全館休館日
1月2日(火) ～ 1月4日(木)	年始特別開館 11:00～18:00 ただし4階図書室は休室します
1月5日(金)～	通常通り開館 10:00～18:00、木・金は20:00まで。 図書室は18:00まで。

展覧会および映画上映は12/29-1/1お休みします

図書室は12/29-1/4お休みします

菊池哲男「月光浴の白馬岳」2006年9月©Tetsuo Kikuchi

＜年始特別開館＞

1月2日(火)～1月4日(木)の年始特別開館期間中には、新春特別フロアレクチャー(「地球(ほし)の旅人」展、本誌9～10ページ)や、恒例のお楽しみ抽選会などを実施いたします。みなさまのご来館をお待ちいたしております。

ミュージアムショップ『ナディッフ バイテン』 1F

NADiff ×10

◎お問い合せ：
「ナディッフ バイテン」
直通 03-3280-3279
www.syabi.com/shop/shop.html

カフェ『シャンブル クレール～明るい部屋～』 1F 2F

chambre claire

◎お問い合せ：
カフェ「シャンブル クレール」
直通 03-5798-2218
www.syabi.com/cafe/cafe_01.html

Calendar

2007年のカレンダー・ダイアリーがお店に揃いました。使いやすい定番タイプのものから素敵なインテリアにぴったりのデコラティブなデザインまで豊富にとり揃えています。限定商品もございますので、お早めにお立寄りください。

Sweets

甘酸っぱいパイナップルがのった香ばしく温かい焼き菓子にバニラアイスクリームを添えました。焼き菓子にアイスを絡めますとより一層美味しくいただけます。コーヒーのお供に是非どうぞ。
「パイナップルの焼き菓子 バニラアイス添え」
¥550(税込)

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

1F 1階ホール Hall Cinema Information

:::友の会割引 :::三越カード割引 :::アトレカード割引

東京都写真美術館で観る映画シリーズ

詳細ホームページ：http://www.syabi.com./schedule/schedule.html

Film Series Vol.27 ニキフォル　知られざる天才画家の肖像

ヴェールに包まれていた天才画家・ニキフォルの生涯が今、明らかになる

言語障害を持ち、文字の読み書きもできなかったため、意思を伝える手段として絵を描き始めたニキフォル。そんな彼の才能が認められたのは、死の数年前のことだった。その陰にはすべてを投げ打って彼の晩年を見守り、身のまわりの世話から結核治療に至るまでの一切に尽力し、創作を手助けした一人の男の存在があった…。ニキフォルが、自身画家でもあった後見人マリアン・ヴォシンスキと出会い、共に過ごした珠玉の日々を描いた感動の実話。男性であるニキフォルの晩年を、今年86歳になる大女優、クリスティーナ・フェルドマンが熱演!60年代の美しきポーランドを舞台に、華麗なカメラワークと映像美、哀切のメロディにのせ、ニキフォルの魅力的な絵画が生まれた背景が鮮やかに蘇ります。

○上映スケジュール：11月3日(金・祝)～12月14日(木)
○休映日：毎月曜日および 12/1(金)、12/9(土)、12/10(日)
○上映時間：10:40／12:45／14:50／16:55／19:00
○料　　金：一般 1,800円／学生 1,500円
　中学生以下・シニア(60歳以上) 1,000円

エデン　03-5738-5704　http://www.nikifor-movie.com/

Film Series Vol.28 恋人たちの失われた革命

息を呑むほど驚異的で魅惑に満ちたフィリップ・ガレルの最新作!

1968年5月、パリ。20歳になったばかりのフランソワは、兵役を拒否し、街に出て行く。そこには、彼と同じように、失うものは何もない若者たちが大勢いた。ある日、フランソワは美しい女性リリーと出逢い、アパートの一室で一緒に暮らし始める…。「夜風の匂い」「白と黒の恋人たち」「自由、夜へ」で知られるフィリップ・ガレルの最新作。ガレル自身の息子でもあり、『ドリーマーズ』で、鮮烈な印象を残したルイ・ガレルを主役に迎え、1968年の時代の愛と混沌を描いた作品です。2005年ヴェネツィア国際映画賞銀獅子賞(監督賞)受賞、オゼッラ賞(技術貢献賞)受賞、2006年セザール賞最優秀新人男優賞受賞のほか、数々の映画賞に輝いた傑作を、どうぞお見逃しなく!

○上映スケジュール：2007年1月2日(火)～
○休映日：毎月曜日
○上映時間：1月2～4日 11:15／14:40　1月5日～ 10:40／14:10／17:40
○料　　金：一般 1,800円／学生 1,500円
　中学生以下・シニア(60歳以上) 1,000円

ビターズエンド　03-3462-0345　http://www.bitters.co.jp/

維持会員 Membership

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に維持会員としてご入会いただきました。
※詳しくはHPをご覧ください。http://www.syabi.com/Membership.html

●特別維持会員
株式会社アイデム
キヤノン株式会社
株式会社資生堂
東京電力株式会社
凸版印刷株式会社
株式会社リコー

●維持会員
株式会社I&S BBDO
株式会社アサツーディ・ケイ
旭化成株式会社
朝日新聞社
朝日生命保険相互会社
アサヒビール株式会社
朝日放送株式会社
アップルコンピュータ株式会社
アデコ株式会社
エスエス製薬株式会社
株式会社NHKアート
株式会社NHKエデュケーショナル
株式会社NHKエンタープライズ
株式会社NHKプロモーション
NTTコミュニケーションズ株式会社
株式会社NTTデータ
株式会社NTTドコモ
NTT都市開発株式会社
エルメスジャポン株式会社
株式会社大塚商会
株式会社大林組
奥村印刷株式会社
オムロン株式会社
オリックス株式会社
オリンパス株式会社
株式会社オンワード樫山
科研製薬株式会社
カシオ計算機株式会社
鹿島建設株式会社
株式会社角川書店
カトーレック株式会社
カルピス株式会社
キッコーマン株式会社
株式会社紀伊國屋書店
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
株式会社キューンコミュニケーションズ
株式会社ぎょうせい
共同印刷株式会社
社団法人共同通信社
協和醗酵工業株式会社
キリンビール株式会社
株式会社講談社
株式会社光文社
株式会社国書刊行会
株式会社コーセー
コダック株式会社
コニカミノルタホールディングス株式会社
株式会社コングレ
株式会社ザ・アール
サッポロホールディングス株式会社
佐藤製薬株式会社
三共株式会社
産経新聞社
サントリー株式会社
株式会社ジェイアール東日本企画
ジェイティービー印刷株式会社
株式会社実業之日本社
清水建設株式会社
株式会社写真弘社
シャネル株式会社
株式会社集英社
株式会社主婦と生活社
株式会社主婦の友社
瞬報社写真印刷株式会社
株式会社小学館
松竹株式会社
信越化学工業株式会社
株式会社新潮社
株式会社スタジオジブリ
株式会社スタッフサービス・ホールディングス
住友化学株式会社
株式会社生活の友社
セイコー株式会社
株式会社青春出版社
積水ハウス株式会社
株式会社絶対空間
セントラル警備保障株式会社
全日本空輸株式会社
ソニー株式会社
第一建築サービス株式会社
第一法規株式会社
大成建設株式会社
大日本印刷株式会社
株式会社竹中工務店
株式会社タムロン
株式会社丹青社
株式会社中央公論新社
中外製薬株式会社
株式会社ディーエイチシー
株式会社ティー・ビー・オー
株式会社テー・オー・ダブリュー
株式会社テレビ朝日
株式会社テレビ東京
電源開発株式会社
株式会社電通
東亜建設工業株式会社
東京ガス株式会社
東京急行電鉄株式会社
東京工芸大学
東京新聞・中日新聞社
株式会社東京スタヂオ
東京綜合写真専門学校
東京テアトル株式会社
株式会社東京ドーム
株式会社東京放送
東京メトロポリタンテレビジョン株式会社
株式会社東芝
東宝株式会社
株式会社東北新社
株式会社徳間書店
図書印刷株式会社
戸田建設株式会社
トヨタ自動車株式会社
株式会社ニコン
日外アソシエーツ株式会社
日産自動車株式会社
株式会社NIPPOコーポレーション
日本オラクル株式会社
株式会社日本カメラ社
日本経済新聞社
日本興亜損害保険株式会社
社団法人日本広告写真家協会
日本写真印刷株式会社
社団法人日本写真家協会
社団法人日本写真協会
日本写真芸術専門学校
日本写真作家協会
社団法人日本写真文化協会
日本大学芸術学部
日本たばこ産業株式会社
日本テレビ放送網株式会社
日本ハム株式会社
日本ヒューレット・パッカード株式会社
株式会社ニッポン放送
日本油脂株式会社
日本ロレックス株式会社
株式会社博報堂
ぴあ株式会社
東日本旅客鉄道株式会社
光写真印刷株式会社
株式会社ファーストリテイリング
株式会社ファンケル
富国生命保険相互会社
富士重工業株式会社(スバル)
富士ゼロックス株式会社
株式会社フジテレビジョン
富士フイルム株式会社
株式会社扶桑社
株式会社ブリヂストン
株式会社プリンスホテル
株式会社フレームマン
株式会社文藝春秋
株式会社ベネッセコーポレーション
ペンタックス株式会社
株式会社ホテルオークラ
株式会社堀内カラー
本田技研工業株式会社
毎日新聞社
株式会社マガジンハウス
松下電器産業株式会社
丸善株式会社
三井倉庫株式会社
三菱地所株式会社
武蔵大学
森ビル株式会社
モルガン・スタンレー証券株式会社
モンブラン ジャパン株式会社
ヤマトロジスティクス株式会社
UFJニコス株式会社
ユニリーバ・ジャパン株式会社
横河電機株式会社
株式会社吉野工業所
読売新聞社
ライオン株式会社
株式会社ワコール

(平成18年9月現在・五十音順)

友の会 Suppoter

東京都写真美術館では、随時新規会員の募集をしています。展覧会のご招待・割引、上映映画の割引、写真美術館ニュースeyesの送付をはじめ、たくさんの特典をご用意している他、関連施設での割引もございます。開館時間中(10:00～18:00)に当館1階チケットカウンター横「友の会カウンター」にてご入会いただけます。皆さまのご入会を心よりお待ちしております。

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

年会費	
個人会員	2,000円
家族会員同伴者1名まで	3,000円
シルバー会員(65歳以上の方)	1,000円

○受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。
○会員証の有効期限は、翌年の同月末日までです。
※詳細は当美術館までお問合わせください。
TEL:03-3280-0099

友の会特典	特典内容
収蔵展・映像展	無料　※会期中は何度でもご観覧いただけます ※家族会員の方は、同伴者1名まで無料
共催展・企画展	割引　※御利用いただけない場合もございます
ミュージアムショップ	5%引き　※一部商品は除きます
カフェ	ブレンドコーヒー、ダージリン紅茶を200円引き ※詳細はお尋ねください
その他	○写美NEWS「eyes」送付　○1階ホール(実験劇場)の割引 ○ナディッフ本店(表参道)で輸入商品1,000円以上のお買上につき5%割引(除外品あり) ○ロゴス渋谷店で1,000円以上のお買上につき5%割引(洋書・洋雑誌)など